

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 3207 号	氏 名	菊池 一生
論文審査担当者	主査 松山 高明 教授 副査 石田 文生 教授 副査 根本 哲生 教授		
<p>論文題名： Clinicopathological study on pIgR expression and tumor progression in advanced colorectal cancer (進行大腸癌における多量体免疫グロブリンレセプター (pIgR) の発現と腫瘍進行に関する検討)</p> <p>掲載雑誌名(巻・号・頁・掲載年)： THE SHOWA UNIVERSITY JOURNAL OF MEDICAL SCIENCES 2021 年掲載予定</p> <p>多量体免疫グロブリンレセプター (pIgR) は、分泌型 IgA とともに腸管免疫に関連し、様々な臓器の腫瘍発生にも関連しているが、大腸癌についての検討は少なく不明な点が多い。菊池らは、pIgR 発現と病理組織学的因子の関連について検討した。対象は昭和大学藤が丘病院において 2016 年から 2018 年に外科的切除をされた進行大腸癌患者のうち KRAS 遺伝子検査を施行した 47 例で、切除検体を用いて免疫組織化学的に pIgR 発現を染色強度と範囲によりスコア化し、5 点以上の高スコア群 (pIgR-H) 13 例と 4 点以下の低スコア群 (pIgR-L) 34 例に分けたところ、pIgR-L 群は pIgR-H 群よりも静脈浸潤の頻度が有意に高かった ($p=0.02$)。一方で、pIgR-H 群は pIgR-L 群よりも KRAS 遺伝子変異の頻度が有意に高かった ($p=0.04$)。今後の症例蓄積を要するが、進行大腸癌患者における pIgR 発現と病理組織学的因子との関係が相反する可能性もあることが示され、本研究により pIgR 発現と大腸癌の関連に新たな傾向が存在する知見が示された。</p> <p>本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。</p>			

(主査が記載)